

令和6年 第2回定例会

一般質問文書表

稲城市議会

通告番号	氏名	質問項目 (19人、64項目)	備考
1	池田 英司	1 稲城市の現状と課題について 2 三沢川のさくらについて	
2	坂田たけふみ	1 稲城市の公民連携について 2 不登校児童・生徒への支援について 3 市内小中学校プールの在り方について	
3	川村 あや	1 市内小学校・中学校のプール授業および施設の在り方について 2 大丸第2公園プールについて 3 市内の境界確定について	
4	山岸 太一	1 必要な人が必要なサービスを利用できる介護保険制度に向けて 2 稲城市での学校給食費ゼロの早急な実現に向けて 3 男女の賃金格差解消によるジェンダー平等の実現に向けて 4 社会に混乱を引き起こすマイナ保険証の強制中止に向けて	
5	つのだ 寛美	1 坂浜地域天神通りの事故防止対策について 2 不登校支援について 3 情緒学級について 4 路線バスの減便・廃止について 5 市ウェブサイト(ホームページ)の全面改修について	
6	角田 政信	1 「熱中症特別警戒アラート」の運用開始を受けて 2 矢野口のまちづくりについて	
7	中島 健介	1 稲城市のGIGAスクール構想について 2 稲城市の統合型校務支援システムについて 3 稲城市のカーボンニュートラルについて	
8	湯谷 ひろし	1 稲城市在宅高齢者見守り電球サービス及び稲城市在宅高齢者見守りセンサーサービスの令和7年度以降の継続について 2 向陽台・公園通りにおける歩行者の転倒防止対策について 3 JR南武線南側の市道における歩行者等の安全対策について 4 トイレトレーラー等の導入について	
9	岩佐 ゆきひろ	1 市立小中学校の保護者等連絡ツールについて 2 稲城なしのすけデジタル商品券について 3 民間バスの減便について 4 フリーマーケットアプリを活用しての市の粗大ごみの販売について	
10	佐藤 しんじ	1 路上喫煙及び歩行喫煙について 2 ごみの減量とリユース意識の醸成・向上について 3 軟骨伝導イヤホン導入について	
11	岡田 まなぶ	1 稲城市内の地域公共交通、路線バスの維持・拡充について 2 小中学校の不登校の児童・生徒への支援について 3 地方自治法改定案について 4 中学校の教科書採択について	

12	村上 洋子	<ol style="list-style-type: none"> 1 多様な性を認め合う施策について 2 (仮称)稲城市子ども計画の策定について 3 ひとり親家庭・離婚前別居家庭・低所得家庭への教育費の支援について 4 オーガニック給食への取り組みについて 	
13	武田 まさひと	<ol style="list-style-type: none"> 1 大規模震災発生時のトイレ対策について 2 聴覚障害者等の命を救う緊急電話について 	
14	土居 のりひろ	<ol style="list-style-type: none"> 1 「TOKYO GIANTS TOWN」へのアクセスについて 2 仮称「矢野口公園」の運用について 3 交差点での歩行者の安全確保について 4 未来へとつながる教育について 	
15	梶浦 みさこ	<ol style="list-style-type: none"> 1 稲城市のネーミングライツ事業の現状と、ネーミングライツパートナー制度による公民連携の促進について 2 タブレット使用に対応した小中学校の普通教室の児童生徒用デスク(机)の天板の拡張・大型化について 3 若葉台公園 円形広場の原っぱと桜並木の保全について 	
16	田島 きく子	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校の暑さ対策について 2 多摩サービス補助施設の返還について 3 安全な地下水を確保することについて 4 学校トイレへの生理用品の常備について 5 補聴器購入費助成事業について 	
17	榎本 久春	<ol style="list-style-type: none"> 1 孤独・孤立を感じている高齢者の対応について 2 樹木の被害に対する取り組みについて 	
18	いそむらあきこ	<ol style="list-style-type: none"> 1 子どもたちが主体となる学校づくりについて 2 誰一人取り残されない学びの多様化について 3 第五次稲城市長期総合計画の中間点検及び見直しについて 	
19	鈴木 誠	<ol style="list-style-type: none"> 1 稲城市の防災(災害時の水確保)に関する取り組みについて 2 自治会防犯カメラの設置について 3 カスタマーハラスメント対策、市職員の心身のケアについて 4 ガバメントクラウドファンディングの活用について 	

通告番号	会派名	氏名
1	新政会	池田英司

項目番号	質問要旨	摘要
1	<p>稲城市の現状と課題について</p> <p>第5次稲城市長期総合計画も4年目を迎え、都市基盤整備の進捗や、東京ジャイアンツタウン構想の進展などで街が大きく変わっていく中で、改めて稲城市の現状や周辺環境、抱える課題などについて質問します。</p> <p>(1) 稲城市の地理的特徴について</p> <p>①稲城市の地理的特徴とその利点について伺う。</p> <p>②稲城市の地理的特徴から考えて、災害時のリスクをどのように認識しているか伺う。</p> <p>③稲城市の地理的特徴を活かしたまちづくりの方針について伺う。</p> <p>(2) 稲城市の人口の特性について</p> <p>①他自治体と比較したときの稲城市の人口動態はどのような特徴があると認識しているか伺う。</p> <p>②年少人口と高齢者人口の比率について、今後の予測をどのように考えているか伺う。</p> <p>③稲城市の人口構成を鑑みて、今後の施策で重点的に取り組むべき項目をどの様に認識しているか伺う。</p> <p>(3) 稲城市の緑について</p> <p>①稲城市の緑の特徴について伺う。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	②稲城市のみどり率とその現状について伺う。	
	③都市公園や緑地、保存樹木の指定状況について伺う。	
	(4) 生物多様性や気候変動の影響について	
	①稲城市の動植物の生息環境としての特徴を伺う。	
	②動植物の生息環境に与える気候変動の影響に対する市の認識を伺う。	
	(5) 大気や水、土地について	
	①稲城市の大気の状態や水質の特徴について伺う。	
	②稲城市の土地利用の特徴について伺う	
	③稲城市の河川や水系の特徴について伺う。	
	(6) 産業について	
	①稲城市の工業について現状と課題を伺う。	
	②稲城市の商業について現状と課題を伺う。	
	③稲城市の農業について現状と課題を伺う。	
	(7) 交通について	
	①市内の公共交通の現状と課題について伺う。	
	②iバスの現状と課題について伺う。	
	③市内の自家用車の現状について伺う。	
	(8) 景観について伺う	
	①稲城市の都市景観の特徴について伺う。	
	②稲城市の景観形成に対する基本的な方針につ	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	いて伺う。	
	(9) ゴミ・リサイクルについて	
	① 稲城市のゴミの排出量の現状と課題について伺う。	
	② 稲城市の資源回収・リサイクルの現状と課題について伺う。	
	(10) 空き家問題について	
	① 稲城市で現在確認されている空き家の数について伺う。	
	② 空き家の要因について市の認識を伺う。	
	③ 今後市が空き家問題に対してどのように対応するのか認識を伺う。	
2	三沢川のさくらについて 三沢川側道に植樹されております、さくらにつきましては、昭和 59 年頃に市役所周辺から植えられてきたと伺っており、初期のころに植えられている区間においては、約 40 年が経過し大きく成長して、「三沢川 桜・梨の花まつり」などで、多くの市民や稲城市に来訪された方々を楽しませ、広く観光資源として認知されてきていると思います。 一方で、大きく育ったさくらは、根上がりや太い枝等が歩行者等の通行に支障となるなどの課題も発生しているかと思えます。	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	(1) 三沢川側道において、さくらの成長が著しい百村の神王橋から矢野口の新田橋までの間に植樹されている、さくらの品種と本数について伺う。	
	(2) 今後の維持管理の進め方について伺う。	

通告番号	会 派 名	氏 名
2	新政会	坂田たけふみ

項目番号	質 問 要 旨	摘 要
1	<p>稲城市の公民連携について</p> <p>昨今、様々な地域課題や市民ニーズが多様化複雑化する中、限られた財源や人的資源でそれらを網羅するには限界があります。より良い市民サービスを提供するために、行政という枠にとらわれず、民間のノウハウを取り入れる公民連携の重要性は増していると考えます。</p> <p>市でも、昨年10月に公民連携デスクが設置され、先般4月23日の総務委員会では、令和6年3月25日に、株式会社官民連携事業研究所との協定が締結されたとの報告を受けました。</p> <p>そこで、稲城市が考える公民連携の進め方について伺います。</p> <p>(1) 稲城市公民連携デスク設置以降の実績について伺います。</p> <p>① 民間企業等からの相談件数、連携協定について</p> <p>② 公民連携デスクのこれまでの活動内容について</p> <p>③ 公民連携デスクの今後の取り組みについて</p> <p>(2) (株)官民連携事業研究所との協定について</p> <p>公民連携デスクの成果の一つとして(株)官民連携事業研究所との連携協定があり、内外の注目度も高いため、改めて内容を伺います。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	① (株) 官民連携事業研究所の概要について	
	② (株) 官民連携事業研究所のような、自治体と民間企業をつなげるプラットフォームの必要性について	
	③ これまでの具体的な連携実績と今後の連携について	
	(3) 市が考える公民連携の活用像について 公民連携デスク及び(株) 官民連携事業研究所との連携により、公民連携の促進による地域課題の解決がさらに進むことを期待します。市が考える将来像について伺います。	
	① 企業側からの提案だけでなく、市からの地域課題の提示も必要と考えるが、市の認識は。	
	② 公民連携を進めるためには、職員側の意識啓発や相談体制が必要と考えるが市の認識は。	
	③ 公民連携により市民サービスの向上を図るためには、民間企業等との一時的な連携や実験だけでなく、サービスが持続可能なものである必要があると考えるが、市の認識は。	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
2	<p>不登校児童・生徒への支援について</p> <p>令和5年第2回定例会の補正予算が可決された事によりスタートした、校内別室指導支援員制度ですが、年々増加傾向にある不登校児童・生徒への新たな居場所づくりとして大いに期待される所です。</p> <p>そこで開始から約1年が経過しましたが、その後の運営状況について伺います。</p> <p>(1) スタート時は市内中学校6校中、5校でスタートし、その内の1校のみ支援員を配置する事が出来たと伺っておりますが、現在の状況について伺います。</p> <p>(2) 支援員の役割と選定基準や採用方法について伺います。</p> <p>(3) 場所の確保について伺います。</p> <p>(4) 令和5年度の校内別室指導支援員制度を利用した生徒の人数について伺います。</p> <p>(5) 児童生徒たちの利用状況について伺います。</p> <p>(6) 児童生徒たちの運動の機会について伺います。</p> <p>(7) 児童生徒や保護者から寄せられた声について伺います。</p> <p>(8) 児童生徒からの相談対応や他の教育機関との連携について伺います。</p> <p>(9) 校内別室指導支援員制度のマニュアルの有無について伺います。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
3	<p>市内小中学校プールの在り方について</p> <p>本年3月に町田市は、今後建替えを行う学校のプールは屋内プールとすることになり、また、屋内化された学校プールや、市の温水プールを複数の学校で利用し、プール設置校を41校から27校に集約することとしているそうです。</p> <p>プールを使用する期間が2か月程度と短いこともあることから、プールを集約化することは、教職員の負担が軽減され、効率的であると考えます。</p> <p>また、去年は記録的な猛暑であったが、プールの屋内化については、熱中症等を防止することもでき、天候に左右されることなくプール日数を確保することができます。</p> <p>令和4年第3回定例会において、小中学校の水泳授業の民間委託について質問を行い、委託化を研究するとされていましたが、改めてその後の状況について伺います。</p> <p>(1) 令和5年度に、猛暑等により水泳授業が実施できなかった場合の対応について伺います。</p> <p>(2) 先日、福祉文教委員会にて報告された、稲城第三小学校建替えではプールは一部修繕予定であるとしています。予定している稲城第三小学校プールの修繕内容について伺います。</p> <p>(3) 稲城第三小学校のプールを廃止し、水泳授業を委託化すると、プールを維持する経費が不要となり、さらにはプールの跡地を有効に使用することができると思うが、市の見解を伺います。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	<p>(4) 今後、プールの改修を行う際に、屋内化し、プールを集約することは、天候等により水泳授業を停止することがないこと、熱中症等が防げ、児童・生徒の健康が維持できること、行政コストを削減できること、教職員の負担軽減を図ることができると思うが市の見解を伺います。</p>	

通告番号	会派名	氏名
3	稲志会	川村あや

項目番号	質問要旨	摘要
1	市内小学校・中学校のプール授業および施設の在り方について	
	<p>いま、学校プールは全国的に課題が多いと言われています。施設の老朽化が進み、改修費用は億単位であることや、維持管理にも多くの費用がかかること、また、近年の酷暑や豪雨で授業ができない日も増加していること、更に、その維持管理は、先生たちが時間外勤務で行うこともあるそうです。</p> <p>水泳授業には、陸上と異なる運動を通して身体能力を身につける事や、水の事故を防ぐための安全に関する知識と理論的な思考力を育む目的があるとされています。</p> <p>子ども達にとって大切な水泳授業をどう続けていくのか、稲城市でも考える時期にあると考え一般質問させていただきます。</p>	
	<p>(1) 市内小中学校のプール授業の内容について</p> <p>① 市内小中学校の年間のプール授業数について、また時間数の変更等があれば併せて伺います。</p> <p>② 着衣泳の実施状況について伺います。</p> <p>(2) プールの管理状況について</p> <p>① 市内小中学校のプール数および築年数について伺います。</p> <p>② 年間のプール稼働時間および維持管理費用について伺います。</p> <p>(3) プールの民間委託について</p> <p>① 民間施設を利用したプール授業の委託について伺います。</p> <p>② 学校施設を利用したプール指導者の委託について伺います。</p> <p>(4) プールの共用について</p> <p>1校1プールの見直しについて伺います。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
2	<p>大丸第2公園プールについて</p> <p>現在、市内には2つの市民が利用できるプールがあります。 1つは、稲城市立病院に隣接する屋内型プール施設のオーエンス健康プラザ、もう1つは、稲城北緑地に隣接する屋外型プール施設の大丸第2公園プールです。 屋外型のプール施設（大丸第2公園プール）は、夏場のみ稼働しています。 市営プールは、全国的にも老朽化や利用者数の減少など課題が多く維持するのが厳しい状況です。 今後の事を考えた運営が望ましいと考え、現状の確認及びこれからについて質問させていただきます。</p> <p>(1)プールの利用者について</p> <p>①利用者数について伺います。</p> <p>②利用料金について伺います。</p> <p>(2)プールの利用状況について</p> <p>①年間の稼働日数について伺います。</p> <p>②夏季利用以外の稼働について現状を伺います。</p> <p>(3)プールの維持管理について</p> <p>①年間の維持費について伺います。</p> <p>②これまでに行った改修の時期および費用について伺います。</p> <p>(4)プールの利活用および屋内施設改修について</p> <p>①プール以外の用途としての利活用について伺います。</p> <p>②プールの屋内施設改修について伺います。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
3	市内の境界確定について	
	<p>市内には境界確定がされていない土地が多く残っています。境界確定がされていないと、土地の売買や開発等、新たに何かを始める事が難しく、その関係でトラブルも多く発生しています。市内では、未だ境界確定がされていない市有公共用地と隣接する土地が多いことから、今後の事を考え質問させていただきます。</p>	
	<p>(1) 境界確定の状況について</p> <p>①市が管理する境界確定の種類について伺います。</p> <p>②境界確定の進捗率について伺います。</p> <p>③今後について伺います。</p> <p>(2) 境界確定の規約について</p> <p>①市の規約について伺います。</p> <p>②規約の見直しについて伺います。</p> <p>③今後について伺います。</p>	

通告番号	会 派 名	氏 名
4	日本共産党	山岸太一

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
1	<p>必要な人が必要なサービスを利用できる介護保険制度に向けて 第9期の稲城市介護保険事業計画が開始しています。 「史上最悪の制度改悪」と言われた改悪項目を利用者と事業者の声で押し戻しましたが、「負担増」と「利用抑制」による使いづらい介護保険制度という現状は変わりません。介護を必要としている人が、必要な介護サービスを受けられる介護保険制度を求める立場から質問します。</p> <p>(1) サービス利用料負担について</p> <p>①直近のサービス利用料負担割合別の人数と割合について聞きます。</p> <p>②国は「2割負担・3割負担」の対象者を拡大することの検討を継続しているが、この事について認識を聞きます。</p> <p>(2) 「介護予防・日常生活支援総合事業（総合事業）」のこれまでと今後の見通しについて</p> <p>①稲城市で実施している「総合事業」の種類別のサービス内容について聞きます。</p> <p>②第9期事業計画における「総合事業」の課題や取り組み計画について聞きます。</p> <p>③国は「総合事業」の対象として要介護1・2の人を加えることの検討を継続しているが、この事について認識を聞きます。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
2	<p>稲城市での学校給食費ゼロの早急な実現に向けて 小中学校の給食費無償化が23区だけでなく、多摩地域でも急速に広がっています。もはや給食費ゼロは当たり前になりつつあります。子育て支援の推進と義務教育の完全無償化の観点から、稲城市でも早急に学校給食費無償化実施を求める立場から質問します。</p> <p>(1) 現在、多摩地域で小中学校の給食費が無償化・一部無償化(第2子・第3子等)となっている自治体名について聞きます。</p> <p>(2) 東京都の学校給食費負担軽減事業の概要について聞きます。</p> <p>(3) 稲城市でも早急に学校給食費無償化を実施すべきと考えるが認識を聞きます。</p>	市長答弁を 求める
3	<p>男女の賃金格差解消によるジェンダー平等の実現に向けて 日本の「ジェンダーギャップ指数」を押し下げる要因として、男女の賃金格差や非正規労働における女性の多さ、管理職の女性の少なさがあります。稲城市役所内における男女の格差を明確にして、格差解消によるジェンダー平等の実現を求める立場から質問します。</p> <p>(1) 女性活躍推進法改正に伴う「情報公表」について2022年7月施行の「情報公表」の内容について聞きます。</p> <p>(2) 市立病院を除いた稲城市職員の男女比について ① 正規職員の男女数について聞きます。 ② 非正規職員の男女数について雇用形態別に聞きます。 ③ 課長級以上の管理職の男女数について役職別に聞きます。</p> <p>(3) 市立病院を除いた稲城市職員の男女の賃金格差について ① 全職員の男女の賃金の差異について聞きます。 ② 正規職員の男女の賃金の差異について聞きます。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
4	<p>③非正規職員の男女の賃金の差異について聞きます。</p> <p>(4) 稲城市役所における男女格差解消について</p> <p>①職員の男女数を同数に近づけるための取り組みについて認識を聞きます。</p> <p>②男女の賃金格差を是正するための取り組みについて認識を聞きます。</p> <p>社会に混乱を引き起こすマイナ保険証の強制中止に向けて 政府が予定している現行の健康保険証の廃止まで残り半年に迫ってきましたが、変わらずマイナ保険証の利用率は低迷しています。社会と市民生活に混乱を引き起こすだけのマイナ保険証の強制に反対する立場から質問します。</p> <p>(1) 12月2日の現行の健康保険証廃止に向けた今後の作業工程について聞きます。</p> <p>(2) 直近のマイナ保険証の利用件数と利用率について聞きます。</p> <p>(3) マイナ保険証の強制は止めて、現行の健康保険証を残すべきと考えるが認識を聞きます。</p>	

通告番号	会 派 名	氏 名
5	公 明 党	つ の じ 寛 美

項目番号	質 問 要 旨	摘 要
1	<p>坂浜地域天神通りの事故防止対策について</p> <p>坂浜地域の天神通りをスピードを上げて走っていく自動車をよく見かけると共に、交通事故も多発しているとのお声を頂き、事故防止対策をしてほしいと考え市の見解を伺います。</p> <p>(1)天神通りの事故件数について伺います。</p> <p>(2)今後の取組について伺います。</p>	
2	<p>不登校支援について</p> <p>学校は、子どもの不調や遅刻の増加など、不登校の端緒に早期に気づき対応することが重要です。休む子がいた場合、すぐにどう対応したらよいかと考える教員が多いが、「学校に行きにくいのはなぜか」という理由を明らかにすることが第一歩です。その心構えを持って教員が寄り添うことで効果が上がります。また、教員だけで理由を探すのではなく、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの専門職も含めた、「チーム学校」として適切な解を導き、支援につなぐことが求められていると考え伺います。</p> <p>(1)小学生と中学生の不登校児童と生徒数について伺います。</p> <p>(2)校内別室指導支援員の役割と成果を伺います。</p> <p>(3)不登校対応巡回教員について伺います。</p> <p>(4)教育センターにおける不登校支援について伺います。</p> <p>(5)バーチャル・ラーニング・プラットフォーム、</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	アバターロボットの導入について伺います。	
3	情緒学級について	
	<p>自閉症や対人関係の形成が困難な子どもなどが、少人数で教科の授業を受けられる教室が情緒学級です。通常学級や通級指導だけでは支援しきれない子供が多くいる中で、情緒学級を含め、多様な選択肢を確保することが重要になります。市の見解を伺います。</p>	
	(1)稲城市の特別支援教育について伺います。	
	(2)自閉症・情緒障害特別支援学級について伺います。	
4	路線バスの減便・廃止について	
	<p>2024年4月1日から運転手の労働時間の規制強化が始まりました。2024年問題で、全国各地でバスの運転手が不足し、減便や廃止が相次ぐ事態となっています。全国的な問題とはいえ市民からのお声は伺っています。そこで、路線バスの減便・廃止について市の見解を伺います。</p>	
	(1)市内の減便や廃止の状況について伺います。	
	(2)オンデマンドや無人バス運行の取組について伺います。	
	(3)市で出来る今後の取組について伺います。	
5	市ウェブサイト(ホームページ)の全面改修について	
	<p>市ウェブサイト(ホームページ)については、2年以上かけて検討してきたと伺いました。今年度は予算計上されて、いよいよ行政情報の発信が充実</p>	

通告 番号	会 派 名	氏 名
6	新 政 会	角 田 政 信
項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
1	<p>「熱中症特別警戒アラート」の運用開始を受けてより積極的な熱中症対策を進める目的で改正気候変動適応法が2024年4月から施行されました。</p> <p>その内容は</p> <p>ア 熱中症対策実行計画の法定計画への格上げ</p> <p>イ 熱中症警戒アラートの法定化と熱中症特別警戒アラートの創設</p> <p>ウ 市町村長による指定暑熱避難施設(クーリングシェルター)および、熱中症対策普及団体の指定の制度等、国の対策、地域の対策、アラート(警戒情報)の三本柱の施策が講じられた。</p> <p>(1)熱中症特別警戒アラートに対する、市の認識について</p> <p>① 熱中症特別警戒アラートに対する市民認知度を上げる施策について伺います。</p> <p>② 熱中症特別警戒アラートが東京に発令された場合の対策や市民広報について伺います。</p> <p>③ 保育園や幼稚園等の対策について伺います。</p> <p>④ 小学校や中学校の対策について伺います。</p> <p>⑤ 高齢者施設の対策について伺います。</p> <p>⑥ 障害者施設の対策について伺います。</p> <p>⑦ 稲城市立病院の対策について伺います。</p> <p>⑧ スポーツ協会等の競技に対する取り決めや対策について伺います。</p> <p>(2)クーリングシェルターについて</p> <p>現在クーリングシェルターは市内に何ヶ所開設されているのか、開設されていない場合は、今後の予定について伺います。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
2	<p data-bbox="268 248 671 286">矢野口のまちづくりについて</p> <p data-bbox="228 311 1141 349">(1)「TOKYO GIANTS TOWN」構想の進捗状況と今後について</p> <p data-bbox="244 374 1197 477">①多3・4・12号読売ランド線の現状と、今後の予定について伺います。</p> <p data-bbox="244 501 1240 604">②京王よみうりランド駅南口駅前広場及び、稲城駅南口駅前広場の整備計画について伺います。</p> <p data-bbox="244 629 1212 667">③弁天通り商店街を含めた周辺地域の機運醸成について伺います。</p> <p data-bbox="221 692 887 730">(2)稲城榎戸地区土地区画整理事業について</p> <p data-bbox="244 754 1161 857">①多7・5・3号宿榎戸線の整備状況と今後の予定について伺います。</p> <p data-bbox="244 882 1059 920">②吉方公園の整備状況と今後の予定について伺います。</p> <p data-bbox="244 945 1008 983">③(仮称)矢野口公園の整備計画について伺います。</p> <p data-bbox="244 1008 1161 1046">④多7・5・2号公園通り梨の道線の整備計画について伺います。</p> <p data-bbox="221 1070 1025 1108">(3)稲城矢野口駅周辺地区土地区画整理事業について</p> <p data-bbox="244 1133 994 1171">①現在の進捗状況と今後の予定について伺います。</p> <p data-bbox="244 1196 1072 1234">②旧スーパー堤防C工区の整備計画について伺います。</p>	

通告番号	会派名	氏名
7	稲志会	中島 健介

項目番号	質問要旨	摘要
1	稲城市の GIGA スクール構想について	
	<p>稲城市では市立小・中学校のすべての児童・生徒に学習者用端末を 1 人 1 台配備し、令和 2 年度から、教育活動での活用が開始され、今年度で 5 年目になりました。</p> <p>GIGA スクール構想は、全ての子どもたちに対して生まれた環境に関係なく、あらゆる事柄において、より深く、より主体的に学ぶ機会を与えると同時に、一斉授業では難しかった協働的な学習もデジタルの力を使うことで、より簡単に実施することができるようになりました。</p> <p>さらに、データを活用することで、子どもたち一人ひとりの学習状況を把握することができ、子どもの進捗に合った学習をすることが可能となりました。</p> <p>また、国立教育政策研究所の「令和 5 年度全国学力・学習状況調査」によれば、「個別最適な学び」や「主体的・対話的で深い学び」を実施している学校では、子供たちの自己有用感や幸福感が高くなるという調査結果が出ました。</p> <p>これは授業改善を進めることによって、子どもたちをもっと幸せにできる可能性があるということを示しています。</p> <p>そこで、稲城市の GIGA スクールの考え方、学校現場と家庭における活用状況や今後の活用について伺ってまいります。</p>	
	(1) 稲城市の GIGA スクールの考え方について	
	(2) 授業での基本的なタブレットの活用事例について	
	(3) 家庭学習におけるタブレットの活用状況について	
	(4) 海外姉妹都市とのオンライン交流の現状について	
	(5) 教員に対する ICT 講習・研修について	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
2	稲城市の統合型校務支援システムについて	
	<p>文部科学省では、統合型校務支援システムを導入するメリットとして、情報システムの利用により校務における業務負担を軽減できることに加え、情報の一元管理及び共有ができる点を挙げ、広く学校運営を支える情報基盤として捉えています。</p> <p>また、システムの導入により教員の長時間労働の緩和や学校経営の改善、保護者との連携強化などの効果が期待されます。</p> <p>さらに、一番重要なことは、こうした校務の効率化によって空いた時間を、生徒一人ひとりと向き合う時間に充てることができ、教育機関全体で指導の質向上につながられることでもあります。</p> <p>稲城市でも「統合型校務支援システム」が令和6年4月から本格的に導入され、今後の教員の方々の働き方改革と指導の質向上に期待をしているところであります。</p> <p>そこで、改めて統合型校務支援システムの導入の目的、現在稲城市で導入されているシステムの概要と運用状況、今後の展開について伺ってまいります。</p>	
	(1) 統合型校務支援システムの概要と導入の目的について	
	(2) 統合型校務支援システムの具体的な運用状況について	
	(3) 統合型校務支援システムの校外からのアクセスの現状について	
	(4) 統合型校務支援システムと学習支援システムの連携について	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
3	稲城市のカーボンニュートラルについて	
	<p>地球規模の課題として世界各国と協議を重ねながら、日本国内では1990年に「地球温暖化防止行動計画」が公布されてから、今日まで地球温暖化に向き合い、対策を講じてきました。</p> <p>稲城市においても令和5年2月に「稲城市カーボンニュートラル宣言」を公表し、同年3月には、「第三次稲城市環境基本計画」を策定するなど、2050年カーボンニュートラルの実現に向けて方針と目標を掲げられました。</p> <p>そして、「第三次稲城市環境基本計画」の内容を、更に深化した計画として令和6年3月に「稲城市カーボンニュートラル推進計画」を策定され、より具体的な施策を明記し、稲城市・市民・事業者の皆様とスクラムを組んで、カーボンニュートラル推進に取り組むことを打ち出されました。</p> <p>そうしたカーボンニュートラル実現のカギになってくるのが、温室効果ガスである二酸化炭素排出量全体の約40%を占める家庭部門における一人ひとりの取組です。</p> <p>子や孫、その先の世代に、この地球を継承していくために、私たちは持続可能な社会の実現に向けて行動する責任があると考えております。</p> <p>そこで、改めて稲城市のカーボンニュートラルの方針について伺うとともに、他市で行われている家庭部門の省エネ行動を促す取り組みなどを参考にしながら、本市における二酸化炭素排出量削減に向けた今後の取り組みについて伺ってまいります。</p>	
	(1) 市のカーボンニュートラルの方針・目標について	
	(2) 過去5年間における温室効果ガスである二酸化炭素排出量の部門別の推移について	

通告番号	会派名	氏名
8	公明党	湯谷 ひろし

項目番号	質問要旨	摘要
1	稲城市在宅高齢者見守り電球サービス及び稲城市在宅高齢者見守りセンサーサービスの令和7年度以降の継続について	
	令和6年度は、稲城市在宅高齢者見守り電球サービス及び稲城市在宅高齢者見守りセンサーサービスの試行最終年度です。	
	見守り電球及び見守りセンサーは、ゆるやかな見守りですが、利用者の異変を知らせることができる点、また、地域の方を緊急連絡先として登録することで、地域における見守りネットワークを広げていく点で、非常に効果的なサービスであると考えます。	
	高齢者等の見守りネットワークをさらに広げていくため、令和7年度以降も両サービスが必要であるとの立場から質問を致します。	
	(1)稲城市在宅高齢者見守り電球サービス及び稲城市在宅高齢者見守りセンサーサービスの現状と効果について	
	①利用登録者数について伺います。	
	②効果について市の認識を伺います。	
	(2)稲城市在宅高齢者見守り電球サービス及び稲城市在宅高齢者見守りセンサーサービスの今後についての考え方を伺います。	
	(3)今後の高齢者等の見守りについて市の考えを伺います。	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
2	向陽台・公園通りにおける歩行者の転倒防止対策について	
	向陽台・公園通り（水の広場から城山公園交差点までの区間）	
	は、買い物やバスの乗車等で多くの市民が利用されておしま	
	すが、歩きづらいとの声が多く、改修等の検討が必要である	
	と考えます。	
	(1)市内道路における転倒事故の状況について	
	①市内道路における過去3年間の各年度における一般	
	負傷の救急搬送件数について伺います。	
	②令和5年度の向陽台・公園通りの向陽台地区における	
	歩行者の転倒による救急搬送件数について、年代別に	
	伺います。	
	(2)向陽台・公園通り（水の広場から城山公園交差点までの	
	区間）の歩道の状況について	
	①歩道の主な舗装構造について伺います。	
	②過去3年間の各年度における、向陽台・公園通りの	
	向陽台地区の歩道補修件数について伺います。	
	(3)歩道における今後の補修・改修予定について伺います。	
	3 JR南武線南側の市道における歩行者等の安全対策について	
	JR南武線南側の市道（多摩稲城マンションから稲城長沼駅	
	までの区間）は、買い物や通院、保育園通園等で多くの市民	
	が利用されております。しかし、他の市道と比べ、歩道の幅	
	が狭い部分があることや歩道と車道との高低差があることで、	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	<p>買い物カートやベビーカーを使用しながらスムーズに通行ができないとの声がございませう。また、移動途中で休憩できるベンチの設置を望む声がございませう。</p>	
	(1)JR南武線南側の市道（多摩稲城マンションから稲城長沼	
	駅までの区間）における安全対策について	
	①歩道の幅員と車道との高低差について伺います。	
	②歩道のセミフラット化など、歩行者がスムーズに	
	通行できるような道路の改修について伺います。	
	(2)高齢者等が休憩できるベンチの設置について	
	①市内におけるベンチの設置に対する市の考えについて伺います。	
	②JR南武線高架下のJR敷地にベンチを設置することについて伺います。	
4	トイレトレーラー等の導入について	
	多目的に使用できるトイレトレーラーを導入している自治	
	体が増えていませう。トイレトレーラーは、大規模な断水が起	
	こった場合に緊急用として使われたり、自治会が開催するイ	
	ベント会場に貸し出しするなど、さまざまな形で使用されて	
	おります。	
	平時、緊急時を問わず、さらなるトイレ環境の整備が必要	
	であるとの立場から質問を致しませう。	
	(1)大規模な断水時におけるトイレ対策について伺います。	
	(2)ラップ式トイレの導入について伺います。	

通告番号	会 派 名	氏 名
9	改革未来の会	岩佐ゆきひろ

項目番号	質 問 要 旨	摘 要
1	<p>市立小中学校の保護者等連絡ツールについて</p> <p>(1) 令和6年度から市立小中学校保護者等の連絡ツールとして「すぐーる」を統一で使用することになりましたが、その経緯について伺います。</p> <p>(2) 今後、各小中学校が「すぐーる」を使い、どのようにして情報発信をしていくのか、また導入のスケジュールについて伺います。</p> <p>(3) これから「すぐーる」に移行していく市立小中学校についてはこれまでの連絡ツールから短期間で切り替えてしまうより、一定期間併用した方が漏れなく周知できると考えます。市の見解を伺います。</p>	
2	<p>稲城なしのすけデジタル商品券について</p> <p>4月5日～21日まで稲城なしのすけデジタル商品券の申し込みがありました。</p> <p>(1) 申し込み総数と当選確率について伺います。</p> <p>(2) 購入条件と抽選方法について伺います。</p> <p>(3) 利用可能な店舗数について伺います。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
3	<p>民間バスの減便について</p> <p>(1) 市内の民間路線バスにおいても3月16日より大幅な減便がおこなわれました。市には市民から、どのような意見や要望が届いているのか伺います。</p> <p>(2) 私のもとにも、今回の民間路線バスの減便で「帰りのバスを待つ時間が増えた」「深夜バスがなくなってしまった」等、多くの市民の方から不便になったという声が届きました。通勤・通学環境の向上に向けた対策を伺います。</p>	
4	<p>フリーマーケットアプリを活用しての市の粗大ごみの販売について</p> <p>(1) 2年前から一部の自治体が、フリーマーケットアプリを活用した粗大ごみの販売を開始しており、自治体に集まった粗大ごみをフリーマーケットアプリに出品して販売するこの取り組みで、令和5年9月からスタートした三島市では、半年で450点近くが売れております。およそ4トンのごみ削減に成功しております。以下の点について伺います。</p> <p>①現在、取り組んでいる自治体数について</p> <p>②令和5年度、市の年間の粗大ごみの総重量について</p> <p>③本市で取り組んだ際の期待される効果と市の見解について</p>	

通告番号	会派名	氏名
10	公明党	佐藤しんじ

項目番号	質問要旨	摘要
1	<p>路上喫煙及び歩行喫煙について</p> <p>新型コロナウイルスが感染症法上の5類に移行後1年が経過し、通勤、通学する人たちを含め、外出する人の数が、コロナ禍前の状況に戻ってきているように感じます。そしてそれと同時に、ごみやタバコの吸い殻等のポイ捨てが目立つようになったとも感じます。そこで、路上喫煙及び歩行喫煙にかかわる市の取組み等について伺います。</p> <p>(1) 「稲城市路上喫煙の制限に関する条例」に基づく、市の取組みについて伺います。</p> <p>(2) 路上喫煙及び歩行喫煙、また、タバコのポイ捨てに関して、市役所に寄せられる苦情や被害の内容について伺います。</p> <p>(3) 今後の市の取組みについて伺います。</p> <p>(4) 路上喫煙及び歩行喫煙の禁止区域を市内全域に広げることについて、市の考え方を伺います。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
2	<p>ごみの減量とリユース意識の醸成・向上について</p> <p>令和5年4月より、プラスチックごみの分別収集が始まりました。この一年間におけるリサイクル量やごみの減量について、先般、市より発表がありました。それによりますと、プラスチックごみ約850t、ガラス・陶磁器類約70t、年間で約920tがリサイクルされ、また、可燃・不燃ごみの回収量は約1万2,700tとなり、令和4年度より約1,600tの減量となったとのことであります。この数値は速報値ではありますが、プラスチックごみの分別収集により、大変大きな成果を得ることが出来たことを示していると思います。カーボンニュートラルの実現を目指す稲城市にとり、この流れを加速させることは重要であると考えます。</p> <p>(1) プラスチックごみの分別収集の取組みによる、ごみの大幅減量とリサイクルについて、市の見解を伺います。</p> <p>(2) 不用品の交換を通じてリユースの促進とごみの減量を図るための情報交換コーナー、「ゆずります」「ゆずってください」の利用状況について伺います。</p> <p>(3) ごみの更なる減量とリユース意識の醸成・向上を目的に、フリマアプリや市内のリサイクルショップを活用することについて、市の考えを伺います。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
3	<p>軟骨伝導イヤホン導入について</p> <p>人と人とのコミュニケーションの向上は、日々の生活を送る上で大きな活力となると考えます。また、市民と行政とのコミュニケーションは、安心して生活する上で欠かすことは出来ません。そのことから、市民と行政を結ぶ市役所窓口におけるコミュニケーションの向上を図ることは必要であり、人生 100 年時代における高齢者世代において、とりわけそのように考えます。そのための一つの手段として、軟骨伝導イヤホンの活用が有効であると考えます。</p> <p>(1) 市役所窓口における、高齢者とのコミュニケーションを円滑にするための市の取組みについて伺います。</p> <p>(2) 今後の市の取組みについて伺います。</p> <p>(3) 市役所窓口に軟骨伝導イヤホンを導入することについて、市の見解を伺います。</p>	

通告番号	会 派 名	氏 名
11	日本共産党	岡田まなぶ

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
1	<p>稲城市内の地域公共交通、路線バスの維持・拡充について</p> <p>2024年3月中旬から稲城市内の路線バスが減便になり、市民から「不便になった」「困る」「元に戻してほしい」との切実な声が多数寄せられている。</p> <p>私たちは、市民の生活を支える地域公共交通である路線バスを守るために、バス運転手の賃金・処遇改善、国・都・市の支援・補助等による路線バスの維持・拡充を求めている。</p> <p>(1) 市内路線バスの減便の状況（減便数など）および理由についての認識は。</p> <p>(2) 市民の暮らし、通勤・通学に欠かせない地域公共交通としての路線バスの重要性についての認識は。</p> <p>(3) 市民の暮らしを支える地域公共交通として、市内路線バスを2024年3月以前の便数に戻すこと、および、路線バスの維持・拡充を、京王バス、小田急バスに求めるべきと考えるが認識は。</p> <p>(4) 路線バスの維持・拡充のために、国、東京都に支援・補助を求めるべきと考えるが認識は。</p> <p>(5) 地域公共交通を守るために、iバス拡充、デマンド交通導入などの検討については。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
2	<p>小中学校の不登校の児童・生徒への支援について</p> <p>(1) 小中学校の過去5年間の児童・生徒数および不登校の人数、市の不登校支援の基本的な考えと取り組みは。</p> <p>(2) 不登校の児童・生徒への施設整備面での支援として、各校への登校支援教室の設置やチャレンジクラス(東京型不登校特例校)の設置などに取り組むべきと考えるが認識は。</p> <p>(3) 不登校の児童・生徒への人的支援として、校内別室指導支援員、不登校対応巡回の取り組み状況、および、人的支援(家庭と子どもの支援員、学力向上支援者、チャレンジクラス設置による正規教員配置など)を拡充すべきと考えるが認識は。</p> <p>(4) スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを拡充すべきと考えるが認識は。</p>	
3	<p>地方自治法改定案について</p> <p>地方自治法改定案が国会で審議されている。改定案は、政府が「国民の安全に重大な影響を及ぼす事態」と判断すれば、国に地方自治体への広範な「指示権」を与えるもので、自治体を国に従わせることになると危惧されている。</p> <p>(1) 地方自治法改定案の概要は。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
4	<p>(2) 全国知事会は、国が指示を行う際は、現場の実情を踏まえたものとなるように、事前に国と自治体が適切に協議・調整することや、国の補充的な指示は、地方自治の本旨にのっとり、目的の達成のための必要最小限度の範囲とすることなどを求めている。法案の「補充的な指示」ができる「特例」についての要件は曖昧であり、明確な根拠なく、国が自治事務への関与を強めることが懸念されると考えるが市の認識は。</p> <p>(3) 地方自治法改定案は、政府から独立した機能をもつ「団体自治」と住民の意思にもとづく「住民自治」を保障した、憲法の定める地方自治を大きく後退、変質させることが危惧されることから、地方自治法改定を行うべきではないと考えるが認識は。</p> <p>4 中学校の教科書採択について</p> <p>中学校の教科書採択が近づくなか、あらためて問う。</p> <p>(1) 令和7年度（2025年度）使用の中学校教科書採択に向けた取り組みとスケジュールは。</p> <p>(2) 教科用図書採択要領の内容、教科用図書審議会および調査研究委員会の取り組みは。</p> <p>(3) 公正・公平に、公開で進めていくことが大切と考えるが認識は。</p> <p>(4) 教科書展示で、多くの市民が見ることができ、声を聞けるようにすることについて。</p>	

通告番号	会派名	氏名
12	無所属	村上洋子

項目番号	質問要旨	摘要
1.	<p>多様な性を認め合う施策について</p> <p>令和5年11月に開催された第1回第四次稲城市教育振興基本計画策定委員会の会議録(議事要旨)の中に、アンケート内容の検討に関する発言として、5年前に比べてLGBTQに関する相談が増えている旨のやり取りがありましたので、現状での小・中学校での「性の多様性」に関する相談の状況や対応について確認し、子どもたちにとって最善の対応をしていただくために質問を致します。</p> <p>(1) 市立小・中学校での「性の多様性」に関する相談の状況について伺います。</p> <p>(2) 児童・生徒からの相談があった場合、どのように対応されているか伺います。</p> <p>(3) 教職員に対する「性の多様性」に関する研修について伺います。</p> <p>(4) 今後の性教育の取り組みについて伺います。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
2.	<p data-bbox="274 302 1215 347">(仮称)稲城市こども計画の策定について</p> <p data-bbox="274 425 1215 638">稲城市は、令和 5 年度から令和 6 年度の 2 カ年をかけて、新たなこども計画を策定する予定です。その進捗状況について令和 5 年第 4 回定例会にて質問を致しましたが、2 度目の確認をします。</p> <p data-bbox="274 716 1215 817">(1) 計画策定の進捗状況と今後の策定スケジュールについて伺います。</p> <p data-bbox="274 884 1215 1153">(2) 国は「こども基本法」に基づく「こども大綱」を策定し、東京都は国に先がけて「東京都こども基本条例」に基づく「こどもの未来アクション」を 2023 年 1 月に公表していますがこれらをどのように参酌していくのか再度伺います。</p> <p data-bbox="274 1220 1215 1321">(3) 今回の新計画のポイントはどのようなものがあるか、再度伺います。</p> <p data-bbox="274 1388 1215 1601">(4) 国や都の大綱やプランには若者も含まれます。市の新計画には若者が含まれるのか、含まれるとしたら計画の策定には若者の意見を反映する委員としてどのような方の参加を考えているのか伺います。</p> <p data-bbox="274 1668 1215 1825">(5) 広く、市民の意見、特に当事者である子ども・若者の意見を反映することが重要と考えますが、どのように行っていくのか再度伺います。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
3.	<p data-bbox="279 304 1219 416">ひとり親家庭・離婚前別居家庭・低所得家庭への教育費の支援について</p> <p data-bbox="279 488 1219 925">ひとり親家庭・離婚前別居家庭・低所得家庭においては、子の進学等にかかる教育費の捻出が難しく、進路をあきらめざるを得ないケースもあります。すべての子どもが、自分の夢をあきらめずに進むための教育費の支援は大変重要です。特に、自治体として紹介し支援に繋ぐことのできる制度等の情報をタイミングよく利用者にお届けすることも含め、さらにわかりやすく使いやすい支援の実現のために伺います。</p> <p data-bbox="279 996 1219 1093">(1) ひとり親家庭への教育費の支援にはどのようなものがあるか伺います。</p> <p data-bbox="279 1220 1219 1317">(2) 離婚前別居家庭への教育費の支援にはどのようなものがあるか伺います。</p> <p data-bbox="279 1444 1219 1541">(3) 低所得家庭への教育費の支援にはどのようなものがあるか伺います。</p> <p data-bbox="279 1668 1219 1765">(4) 教育費の支援に関する情報の周知について伺います。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
4.	<p>オーガニック給食への取り組みについて</p> <p>オーガニック食材や地産地消への関心が市内においても高まりを見せています。子どもたちに安心安全な給食を提供し、市内の生産者と農地も健康に、また、姉妹友好都市等からのオーガニック食材の購入により、国全体としての食の安全保障と持続可能な農業を推進するために伺います。</p> <p>(1) 学校給食での有機、無農薬、減農薬食材等の現状での取り組みについて伺います。</p> <p>① 米について伺います。</p> <p>② 稲城市産農産物について伺います。</p> <p>③ 姉妹友好都市からの農産物等の購入について伺います。</p> <p>(2) 学校給食の食材のうち、使用量の多い主な食材、主食の米、調味料のしょうゆ、みそ、農産物のタマネギ、人参、キャベツ、緑豆もやし、ジャガイモ、大根、長ネギ、小松菜、白菜、きゅうりについて、年間の使用量と、これを減農薬や有機のものに切り替えるためにかかる費用について伺います。</p> <p>(3) 国は有機農産物の重要な販路として学校給食を挙げています。そして、「みどりの食料システム戦略」として、有機農業産地づくりを推進し、2025年までに「オーガニックビレッジ宣言」自治体100か所を目指しています。また、都においても農のある風景を将来に引き継ぐ「農の風景育成地区制度」を創設しています。</p> <p>稲城市産農産物と姉妹友好都市の農産物等を中心にオーガニック食材（有機、無農薬、減農薬等の食材）の使用を推進していく事は、子どもたちの健康のためにも、稲城市と姉妹友好都市の農業政策の推進のためにも大変有益であると考えますが、市長の認識を伺います。</p>	<p>市長答弁 を求む</p>

通告番号	会 派 名	氏 名
13	無所属	武田まさひと

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
1	<p>大規模震災発生時のトイレ対策について</p> <p>令和6年、元日に起きた能登半島地震では排水設備や下水道管の損傷により、トイレ機能の損失等の公衆衛生問題が発生し、市民の健康や社会活動に重大な影響を及ぼしました。内閣府防災情報によると、水道が使える場合であっても、発災直後は下水処理場の被害状況が確認されるまでは、水洗トイレの使用を禁止し、災害用トイレを使用することが推奨されています。また、同時にし尿処理対策も講じる必要があることから質問をします。</p> <p>(1) 東日本大震災や、熊本地震、そして令和6年元日の能登半島地震において、トイレの問題が指摘されました。稲城市の認識を伺います。</p> <p>(2) 大規模震災時にトイレを利用する際、水が必要な場合の調達場所と方法を伺います。</p> <p>(3) 市の簡易トイレはどこにどのくらい備蓄しているのかを伺います。</p> <p>(4) トイレは在宅避難を余儀なくされたご家庭でも深刻な問題となると考えます。上水道はもとより液状化などにより下水道管が破損した場合、または点検・修復が終わるまで汚物を流すことができず、溜めておくこととなりますが、稲城市のし尿処理の体制について伺います。</p> <p>(5) トイレトレーラー・トイレカーは、停電があったとしても夜間の電気を賄えることなど、通常のトイレと遜色がないと聞きます。機動的に動けるトイレトレーラー・トイレカーの配備は必要と考えますが認識を伺います。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
2	聴覚障害者等の命を救う緊急電話について	
	<p>稲城市では聴覚障害者等の119番通報を円滑に受けることができるようにNet119緊急通報システムを導入していますが、2021年7月に一般財団法人日本財団電話リレーサービスが提供を始めた電話リレーサービスが運用提供と同時に、119番をはじめ110番、118番の利用が始まりました。多くの選択肢があることは聴覚障害者等にとって、生命と財産を守るという観点からもとても有効だと考え、運用方法について普及を加速するべきという立場で質問します。</p>	
	<p>(1) Net119緊急通報システムについて伺います。</p> <p>①稲城市民のNet119緊急通報システムの登録者数を伺います。</p> <p>②直近の運用実績を伺います。</p> <p>③利用方法を伺います。</p> <p>④周知で工夫していることがあれば伺います。</p>	
	<p>(2) 電話リレーサービスの119番緊急通報について伺います。</p> <p>①稲城市民の電話リレーサービス登録者数がわかれば伺います。</p> <p>②電話リレーサービスでかかってきた119番緊急通報は今まであったかを伺います。</p> <p>③電話リレーサービスの緊急電話の利用方法を伺います。</p> <p>④周知で工夫していることがあれば伺います</p>	
	<p>(3) それぞれの特徴や使う方の特性に応じて、だれもが119番につながり生命と財産を守ることが重要だと考えます。多様なシステムがあることは望ましいと考えますが、利用場所の制限について伺います。</p>	
	<p>(4) Net119緊急通報システム同様に電話リレーサービスも、あらゆる機会を捉えて周知や登録支援を行うべきと考えますが、市の見解を伺います。</p>	

通告番号	会 派 名	氏 名
14	稲 志 会	土居のりひろ

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
1	「TOKYO GIANTS TOWN」へのアクセスについて	
	<p>令和7年3月に新GIANTS球場の完成が予定されている「TOKYO GIANTS TOWN」構想。</p> <p>その目玉事業の一つである、多摩地域で唯一の内陸型水族館や飲食施設を含む複合施設のグランドオープンが令和8年度中と公式に発表されております。</p> <p>令和6年3月、「HANA・BIYORI」内に新しくオープンした「よみうりランド眺望温泉 花景の湯」そして今や冬の風物詩とも言えるまでになりました、よみうりランド「ジュエルミネーション」、それらの施設は年間を通して、市内外、大変多くの方に利用されております。</p> <p>「TOKYO GIANTS TOWN」構想の実現により、今後更に多くの方が、各施設の玄関口として公共交通機関である京王よみうりランド駅や稲城駅を利用する事が予想されます。</p> <p>「TOKYO GIANTS TOWN」へのアクセスルートの整備事業は、稲城市を訪れる多くの方々の動線を確認し利便性を向上するだけでなく、市民の活動動線や市内事業者が経済的恩恵を得る上で大変重要な要素と考えます。</p>	
	(1) 玄関口となる駅前の整備について	
	①京王よみうりランド駅について	
	②稲城駅について	
	(2) 路線バス等の公共交通機関の拡充について	
	①京王よみうりランド駅について	
	②稲城駅について	
	(3) 車および徒歩でのアクセスルートについて	
	①車でのアクセスルートについて	
	②京王よみうりランド駅から徒歩でのアクセスルートについて	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
2	仮称「矢野口公園」の運用について	
	<p>令和6年5月1日発行の「広報いなぎ」にて矢野口地区と東長沼地区にまたがる吉方公園の整備計画の情報が発信されました。稲城市初のインクルーシブ公園ということもあり、近隣地域の皆様の期待も大きく、引き続き吉方公園改修整備事業を円滑に進め、市民に愛される公園としての完成を心待ちにしております。</p> <p>吉方公園の整備計画が発信された事により、梨の道で繋がる予定である、仮称「矢野口公園」の今後の整備計画の問い合わせをいただく機会が増えました。</p> <p>矢野口地区の中央部にあり今後の計画も含め、地域住民の早期利用を望む声も多いことから現状の計画案、そして現状できる運用に関して伺います。</p>	
	(1) 仮称「矢野口公園」の現状について	
	(2) 仮称「矢野口公園」の整備計画について	
	(3) 仮称「矢野口公園」の暫定利用について	
3	交差点での歩行者の安全確保について	
	<p>「自転車のまち稲城」を掲げている我が稲城市において、東京2020オリンピック以降、サイクリストが集うまちとして着実に進展しております。サイクリストが集まるカフェや専門店も市内で多く営業されており、今後も発展していく事が予想されます。</p> <p>しかし自転車の通行が増えることにより、歩行者との接触事故や、自動車との事故が増える事も懸念されるのも事実であります。</p> <p>最近では電動アシスト自転車と称する違法自転車の存在も問題視され、市内でも運転する方を見る機会が増えました。</p> <p>自動車との事故に関しては重大事故となる可能性が高い事から各種対策を行っていただいておりますが、歩行者と自転車の接触に関わる対策は、自転車は車両であるとの認識が認知されにくい事から、施策が進みにくいのも事実です。</p> <p>引き続き「自転車のまち稲城」を掲げるためにも、歩行者の安全確保が必要であると考えます。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	(1) 公道における注意喚起について	
	(2) 公道における安全確認について	
	(3) 私道と公道との交差点における安全対策について	
4	未来へとつながる教育について	
	<p>教育における取組は、文部科学省の定める学校教育法などに基づき、各学校において教育課程を編成する基準として学習指導要領の定めにおいて行われております。我が稲城市においても例外なく学習指導要領に沿った指導体制が確立されていることと存じます。</p> <p>国の掲げる「GIGAスクール構想」、必修、教科化された「英語教育改革」、持続可能な開発のための教育「ESD教育」など、これからの社会を見据え、グローバルな人材育成をする目標の下、様々な教育施策が行われております。それらの教育は確かに必要です。</p> <p>しかし、学習指導要領に多く記載のある「伝統と文化」「歴史」「天皇」「国家」「国旗」それらを示すものの多くは我が国「日本」の事柄であります。</p> <p>日本は神武天皇即位以来 2684 年にわたり続いてきた現存する世界最古の国家であり、時の権力者が変われども天皇陛下を別格の存在として敬い、男系の血筋を継承してきた世界唯一の国です。</p> <p>世界最古の歴史書である「古事記」と「日本書紀」、西暦 720 年に完成した「日本書紀」から数えてみても 1304 年に渡り「正史」である「日本書紀」を編纂し続けている、世界で最も長い歴史を持つ奇跡とも言えるのが日本です。残念ながらこの事実を一番知らないのが我が日本国民です。</p> <p>グローバルな人材となる為にも、まずは自国の伝統と文化、歴史を知り、国を愛する事から自分の地域を愛し、家族を大切にし、自己肯定感を得る事が肝要であると考えます。</p>	
	(1) 天皇陛下に関する教育について	
	我が国は国際社会で唯一「エンペラー」と呼ばれる人物がおります、それは天皇陛下のことです。天皇に対する正しい理解と尊重は、日本の伝統と文化、歴史にとって非常に重要であると考えます。	
	① 認識について	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	②現状について	
	(2) 国歌国旗に関する教育について	
	東京都教育庁指導部指導企画課発行の資料では「日本の 伝統・文化に関する教育推進資料」として「我が国の国 旗・国歌を尊重する心の育成」と言う資料が作られてお ります。	
	①認識について	
	②現状について	
	(3) 郷土愛を育む教育について	
	稲城市の美しい自然環境や豊かな文化を活かし、稲城市 の歴史、偉人、地政学、郷土愛を育む教育は大変重要で あります。	
	①認識について	
	②現状について	

通告番号	会派名	氏名
15	無所属	梶浦みさこ

項目番号	質問要旨	摘要
1	<p>稲城市のネーミングライツ事業の現状と、ネーミングライツパートナー制度による公民連携の促進について</p> <p>(1)ネーミングライツの現在の状況について</p> <p>(2)市の道路施設等を活用したネーミングライツについて</p> <p>ルート検索は紙の地図から、スマホやタブレット、パソコンなどのデジタル端末での検索が日常となり、デジタル地図の情報は常時更新によりすぐに表示案内されることから、道路施設のネーミングライツのパートナーとなることは民間の企業・団体にとってメリットが拡大していることと考えます。</p> <p>道路の維持管理財源の確保、民間企業・団体等への地域活動及び社会貢献の場を提供することを目的として、ネーミングライツによる橋や歩道橋、歩行者専用道路などの道路施設を活用することについて市の見解を伺います。</p> <p>(3)市のイベント等のネーミングライツについて</p> <p>市主催の各種イベントにより賑わいが創出され、市民から好評を得ております。厳しい財政状況のもと、持続可能な行事として開催継続とサービス向上を図り、民間企業・団体等の地域活動及び社会貢献の機会を提供することを目的に、市主催のイベント等をネーミングライツに活用できるようにすることについて伺います。</p> <p>(4)ネーミングライツパートナー制度などネーミングライツ事業による公民連携の促進について</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	<p>様々な公共施設や公共事業を対象にネーミングライツのパートナーとして民間企業・団体等からご提案いただけるよう、地域活動及び社会貢献の機会を多く設けると共に、公民連携の一つのツールとして広く提示し、公民連携デスクにて相談を受付しやすい環境を整えるなど、稲城市の公民連携をさらに推進していただきたいと考え、ネーミングライツパートナー制度による公民連携の促進について伺います。</p>	
2	<p>タブレット使用に対応した小中学校の普通教室の児童生徒用デスク(机)の天板の拡張・大型化について</p> <p>「GIGA スクール構想」による1人1台タブレット端末導入によって、稲城市の教育環境が向上し、それゆえに児童生徒の机面積が手狭な状況にあることと考えます。</p> <p>令和7年(2025年)には、小学校全学年を35人学級とすることとなり、普通教室にも若干の余裕が生まれるタイミングとなります。タブレット導入から4年目を迎え、さらなる教育環境の向上に向けて伺います。</p> <p>(1)普通教室の机の天板サイズとタブレット使用時の机上の状況について</p> <p>普通教室の児童生徒の机の天板寸法は平成11年(1999年)の新JIS規格の改正により、幅60cm×奥行き40cmから、幅65cm×奥行き45cm以上に改善された以降サイズ変更はされていないとのことです。稲城市立小中学校の児童生徒用机の天板サイズと、タブレット使用時の机上の状況について伺います。</p> <p>(2)GIGAスクール構想に対応した普通教室の机の天板の</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	<p>拡張・大型化について</p> <p>タブレット端末などを使う授業が増え、従来の机では教材を置くスペースが足りないため、着脱式の拡張ツールにより小中学校で普通教室の机の天板を大きくする動きが広がっているとのことです。机の天板サイズを広げた場合、教室内が狭くなるなどの懸念もありますが、タブレット端末を活用した双方向の授業を快適に行える環境を整備する一助になると考えます。</p> <p>学習指導要領で重視されるアクティブ・ラーニング型授業のための環境整備とGIGAスクール構想の実現に向け、普通教室の机の天板の拡張・大型化について伺います。</p>	
3	<p>若葉台公園 円形広場の原っぱと桜並木の保全について</p> <p>平成13年(2001年)4月に開園した若葉台公園。円形広場の原っぱと桜並木は、市民の憩い場として、子どもたちの遊びスペースとして人気のエリアで、若葉台地区夏祭りの会場としても定着し、地域の人々の集い場としても活用されています。</p> <p>利用者の多い若葉台公園の円形広場の原っぱは、一部芝等の草が無くなり土が露出し水たまりができやすい状況となっています。桜並木のソメイヨシノの樹木は大きく成長し、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが5類に移行し初めて迎えた今春は、傘状の見事な枝ぶりとなった桜を愛でる大勢のお花見客で賑わい、周辺の商業施設への経済波及効果もあったとのことです。</p> <p>若葉台公園にとって大事な円形広場の原っぱと桜並木について、持続発展する花と緑の空間として、魅力度がさらに向上する維持管理・保全をしていただきたいと考え伺います。</p>	

通告番号	会 派 名	氏 名
16	日本共産党	田島きく子

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
1	<p>学校の暑さ対策について 令和 6 年 4 月に改正気候変動適応法が施行されたことから明らかのように、未曾有の猛暑に備えるための取り組みが進んでいます。稲城市立小中学校での暑さ対策について質問します。</p> <p>(1)令和 5 年度に稲城市立小中学校から出された、暑さ対策に関する要望についての件数と主な内容を聞きます。</p> <p>(2)令和 4 年 4 月 1 日に施行された文部科学省の学校環境衛生基準では、教室等の環境について 18℃以上、28℃以下であることが望ましく、二酸化炭素濃度は基準濃度 1500ppm 以下であることが望ましい、と定められました。稲城市立小中学校での対応状況について聞きます。</p> <p>(3)室温を適切に保つためにはエアコンの効果を最大限引き出し、換気も十分にできる工夫が必要だと考えますが、市の認識を聞きます。</p>	
2	<p>多摩サービス補助施設の返還について 令和元年第 4 回定例会で、私は多摩サービス補助施設の返還問題について、質問しました。あらためて返還問題について質問します。</p> <p>(1)都内の米軍基地の現状について 東京都都市整備局ホームページの「東京の米軍基地」に掲載されている都内にある 7 か所の米軍基地に関する返還事業の取り組みについて聞きます。</p> <p>(2)多摩サービス補助施設の現状について ①市が申し込み受付をしている散策事業の概要について聞きます。 ②上記以外の歴史調査・自然調査の実施や受け入れ状況について聞きます。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	<p>③散策事業や歴史調査・自然調査の実施や受け入れは、返還までの共同使用と位置づけています。この受け入れ日数や対象者の拡大を求めるべきと考えますが、市の認識を聞きます。</p> <p>(3)多摩サービス補助施設の早期返還について</p> <p>①1970年代につくられた都立公園構想の進捗状況について聞きます。</p> <p>②これまでの多摩サービス補助施設の返還状況について聞きます。</p> <p>③貴重な自然と歴史の財産へ市民が自由に触れられるように、早期返還を求めるべきだと考えますが、認識を聞きます。</p> <p>3 安全な地下水を確保することについて</p> <p>(1)水質検査について</p> <p>①災害時に利用することとなっている災害時生活用水井戸19か所、民間所有の災害対策用指定井戸44か所について、災害時生活用水井戸は作動状況の点検、採水確認、隔年で水質検査をおこなっています。それでは、災害対策用指定井戸の水質検査等の実施状況について聞きます。</p> <p>②これらの井戸の水質検査結果の公表状況について聞きます。</p> <p>(2)井戸水の飲料水としての利用について</p> <p>①災害時に利用することとなっている井戸水が生活用水に限定されている理由について聞きます。</p> <p>②これらの井戸水について、災害時に飲料水に転用することも想定する必要があると考えますが、市の認識を聞きます。</p> <p>4 学校トイレへの生理用品の常備について</p> <p>小中学校のトイレに生理用品を常備することを求めて、若い性を守る立場から質問します。</p> <p>学校で生理用品を保健室限定で置いている自治体は多摩26市中4市のみとなり、東京都は全ての都立学校でトイレに置いてあります。稲城市でも、学校のトイレに生理用品を置くことを実行するべきだと考えますが、市の認識を聞きます。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
5	<p>補聴器購入費助成事業について 加齢性難聴に伴う補聴器購入及びメンテナンスに市の補助を求める立場から質問します。</p> <p>(1)東京都の「高齢者聞こえのコミュニケーション支援事業」について。 ①この事業の概要について聞きます。 ②従来の「高齢社会対策区市町村包括補助事業」との違いについて聞きます。</p> <p>(2)加齢性難聴に伴う補聴器購入費補助について、都や国に対して全額補助を求めるべきだと考えますが、市の認識を聞きます。</p>	

通告番号	会 派 名	氏 名
17	改革未来の会	榎本 久春

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
1	孤独・孤立を感じている高齢者の対応について	
	<p>高齢者の社会的孤立がもたらす問題点として、生きがいの低下、誰とも会話をしない、近所づきあいをしない、困ったときに頼る人がいないといったこと等があげられ、状況が長く続くと生きがいを喪失するなど、生活に不安を感じることにもつながり、生活習慣病や認知症に罹ってしまう恐れもあります。日本は、「友人、同僚、その他の人」との交流が「全くない」「ほとんどない」と回答した人の割合が先進国の中でも最も多く、現代社会の少子高齢化問題につながっているのではないかと思います。内閣府の令和5年版高齢社会白書を見ますと65歳以上の一人暮らしの方は男女ともに増加傾向にあり、昭和55年には65歳以上の男女それぞれの人口に占める割合は男性4.3%、女性11.2%であったが、令和2年には男性15.0%、女性22.1%となっており、今後も増加し続けることが予測されています。市内における孤独・孤立を感じている高齢者の対応について伺います。</p>	
	(1) 高齢者で支援やサービスを受けていない一人暮らしの高齢者及び高齢者世帯の人数について伺います。	
	(2) 一人暮らしをする高齢者の相談体制について伺います。	
	(3) 現状の高齢者の見守り体制について伺います。	
	(4) 孤独・孤立を感じている高齢者への対応について伺います。	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
2	樹木の被害に対する取り組みについて	
	<p>カシノナガキクイムシが運ぶ病原菌により発生する樹木の伝染病ナラ枯れは、令和2年に市内で確認され、公有地や公園を確認したところ被害が拡大していることが判明し、感染した樹木は枯れてしまうと倒木の危険があることから対応が求められ、令和2年から対策を実施されてきていると思います。樹木を管理する上では、病気や害虫は悩みの種になっているかと思います。高温多湿の日本ではさまざまな病気があり、気づかぬうちに被害が広がっているケースもあると聞いております。放置していると樹勢が衰えるばかりでなく、枯死することもあるのでよく観察することや管理することが必要になるかと思います。温暖化が進み緑の必要性はますます重要になってきます。樹木の被害に対する取り組みについて伺います。</p>	
	(1) ナラ枯れの被害状況について伺います。	
	(2) ナラ枯れ被害に対する取り組みについて伺います。	
	(3) ナラ枯れ以外の樹木の被害に対する取り組みについて伺います。	
	(4) 樹木伐採後の植樹について伺います。	

通告番号	会 派 名	氏 名
18	改革未来の会	いそむら あきこ

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
1	<p>子どもたちが主体となる学校づくりについて</p> <p>令和4年に「生徒指導提要」が改訂され、校則を絶えず積極的に見直すことや、またその過程に児童生徒自身が参画することが明記されました。子どもの人権を侵害する校則は直ちに廃止すべきであると考えますが、ルール・校則を見直すこと自体がゴールではなく、多様な関係者の声を聞き対話を通して考え合うことが、民主主義社会の担い手を育てる場でもある「学校」において、大切であると考えます。そこで、本市の校則に関する考え方や取組みについて伺います。</p> <p>(1) 校則(学校生活のきまり、生徒心得等)の法的根拠について改めて伺う。</p> <p>(2) 校則違反の生徒に対し、教員が帰宅を命じることが可能であるとされているのか認識を伺う。</p> <p>(3) 中学校の標準服について</p> <p>① 中学校の服装は制服ではなく標準服と呼ばれているが、その理由と着用の法的根拠について伺う。</p> <p>② 生徒は学校指定の標準服または体操着(ジャージ)を着用していないと、学校に立ち入ることが出来ないとされているのか伺う。</p> <p>(4) 携帯電話の取扱い等について</p> <p>① 文部科学省からの「学校における携帯電話の取扱い等について(通知)」の内容において、追加された内容について伺う。</p> <p>② 本市の学校での携帯電話の取扱い等に関する考え方の周知について伺う。</p> <p>(5) 校則の見直しについて</p> <p>① 令和4年12月に改訂された「生徒指導提要」の「3.6.1 校則の運用・見直し (4) 児童生徒の参画」の内容について伺う。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	<p>②校則の見直しに関するプロセスについて、具体的な各学校でのルール改定の流れと学校ホームページへの公開状況について伺う。</p> <p>③校則の見直しに関するガイドライン策定の研究状況について伺う。</p> <p>④学校管理規則に校則について明記をしている自治体もあるが、本市での検討について伺う。</p> <p>(6)ルールメイキングについて</p> <p>①ルールメイキングとは、生徒が中心となり先生や関係者と対話しながら校則・ルールを見直していく取り組みのことで、先進的な自治体では民間等の専門家とも連携し、取り組みを進めている学校もあるが、認識について伺う。</p> <p>②児童生徒が主体となる学校づくりの取り組みとして、本市の学校でも「ルールメイキング」の実施を検討されてはどうかと考えるが、認識を伺う。</p> <p>2 誰一人取り残されない学びの多様化について</p> <p>文部科学省では、令和5年より従来使用していた「不登校特例校」に代えて、新たに「学びの多様化学校」に名称を変更しました。これは単なる個別の学校名称の変更ではなく、制度的な表示の変更であり、方向性としては、「不登校対策」から「学びの多様化対策」（多様な学び）への政策的な転換を示唆する内容であると考えます。そこで、本市の多様な学びや居場所の環境整備を求め伺います。</p> <p>(1) 不登校に関するアンケート調査について</p> <p>①文部科学省は、毎年行っている不登校などの全国調査の方法を見直すことを決め、全国の教育委員会などに令和6度の調査票を送付したとの報道があるが、見直された内容について伺う。</p> <p>②今後の本市での調査方法の検討について伺う。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
3	<p>(2) 保護者への支援について</p> <p>①共通する困難な経験や悩みを抱える人同士で体験を共有し、情報を交換し支え合う活動である「ピアサポート」として、福祉だけではなく、教育においても不登校の保護者同士の情報交換等の場が必要であると考え、認識を伺う。</p> <p>②子どもの育ちや学びにとって、よりよい方向性に進むためには教員と保護者との連携が不可欠であるが、どのように取組まれているのか伺う。</p> <p>(3) 子どもたちの安心・安全な居場所づくりについて</p> <p>①子どもたちにとっての安心・安全な居場所とはどのようなものであるのか、認識を伺う。</p> <p>②梨の実ルームや校内別室での居場所づくりの取組みについて伺う。</p> <p>3 第五次稲城市長期総合計画の中間点検及び見直しについて</p> <p>第五次稲城市長期総合計画の策定時に、新型コロナウイルス感染症が蔓延し、先行きが不透明な中計画が策定され、実施計画においては、これまでの計画にはあった財源の内訳が記載されておられません。</p> <p>令和5年5月に、新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、市民のくらしも日常を取り戻しています。そのような中、計画の残り期間である5年間においては、より実効性のある計画にするため、具体的な財政フレームとの調整や時代の変化への対応が必要であると考えます。そこで、基本計画や実施計画、財政推計において、中間点検及び見直しが必要であると考え、以下について伺います。</p> <p>(1) 基本計画、実施計画の中間点検及び見直しについて伺う。</p> <p>(2) 財政推計の中間点検及び見直しについて伺う。</p>	

通告番号	会派名	氏名
19	稲志会	鈴木 誠

項目番号	質問要旨	摘要
1	<p>稲城市の防災（災害時の水確保）に関する取り組みについて</p> <p>定説によると、人間の身体は食べ物が無くても数週間は生きられるが、成人1人につき1日約2～3ℓ必要と言われる水分が無いとももの数日で命を落とすという。まさに命の水の確保は市民それぞれの備蓄は勿論だが行政としても求められるところである。</p> <p>(1) 水道施設の補強・耐震化について つい先日、神戸市で老朽化した消火栓から水が噴き出し、周辺が断水したという事故のニュースがあった。稲城市としての受託水道事業は平成23年度末に廃止され東京都水道局に移管されているが、 ①市内各配水・給水管の更新や耐震化状況については稲城市にも情報共有がなされているのか伺う。 ②遅れも指摘される東京水道施設整備マスタープランにおいて各施設の耐震化が図られていると思うが、向陽台・坂浜・若葉台の各配水・給水所、及び稲城市に配水される浄水場の耐震化状況はどのようになっているか伺う。</p> <p>(2) 飲料水備蓄の啓発について 先ずは市民一人一人の自助体制構築が当然であるが、 ①各家庭における飲料水の備蓄について、市としてどのような啓発の取り組みを行っているか伺う。 ②塩素の効いた水道水を浄水器や煮沸などの手を加えずに保管することで、冬場で1週間、夏場で3日間程度保存が出来るかとされるがこうした知識の啓発はどのようにしているか伺う。</p> <p>(3) 生活用水について 平成25年第1回定例会で質問した時から災害時生活用水井戸19か所、災害対策用井戸47か所、学校プール18か所と着実に充実している生活用水確保だが、 ①濾過器等を活用することでこれらも飲料用にすることが可能であると考えますが、市の見解を伺う。 ②手押し式ポンプではない、動力源が必要な災害対策用井戸の有無について伺う。</p> <p>(4) 応急給水マニュアルについて 写真や絵図がふんだんに使われて市民にも分かり易いマニュアルとなっており、自主防災組織が給水の運用を行う想定と見受けられるが市の認識を伺う。</p> <p>(5) 深井戸の活用について 平尾一号水源等、市内では飲料用に使える深井戸があり災害時活用も期待されるが、 ①市内にどの程度の本数があり、どの程度の水量が確保されると期待しているのか伺う。 ②これらの深井戸は災害時に市民が活用出来るものであるのか伺う。</p>	

項目 番号	質問要旨	摘要
2	<p>自治会防犯カメラの設置について 警察官の確保や交番の常駐化が難しい昨今において、地域の治安向上を期して、稲城市内各所でも設置数が増やされている防犯カメラであるが、</p> <p>(1) 自治会防犯カメラ設置費補助金、自治会防犯カメラ運用経費補助金の予算が確保されているが、創設からこれまでの設置実績数を伺う。</p> <p>(2) 設置場所の選定・契約から、カメラ機材の選び方、管理・運用の仕方などについて、市としてどのような助言、指導をされているのか伺う。</p> <p>(3) 自治会防犯カメラの管理・運用における課題について市の認識を伺う。</p> <p>(4) 設置自体は各自治会からの要望によってというのは当然であるが、その後の管理運用について一元的に管轄するような体制づくりは出来ないのか伺う。</p>	
3	<p>カスタマーハラスメント対策、市職員の心身のケアについて 転職や人事異動等により環境への適応がうまくいかず、体調不良や精神不調となるいわゆる『五月病』の時期も過ぎようとしているが、</p> <p>(1) 市職員の離職・休職率について 働き方改革を推進している稲城市であるが、 ①近年の市役所職員における離職、休職率はどのような推移となっているか伺う。 ②その原因、理由はどのようなものであるか伺う。</p> <p>(2) 心身のケアについて 職員に対する心身のケアは、どのような対応、対策がされているのか伺う。</p> <p>(3) カスタマーハラスメント対策について 市の窓口や電話対応ではカスタマーハラスメントが発生しやすいことも指摘されているが、 ①稲城市役所においてカスタマーハラスメントと思われる事案はどの程度発生しているのか伺う。 ②現在、市としては同課題に対してどのような対策をされているのか伺う。 ③札幌市ではカスタマーに見える位置に啓発ポスターを掲示して警告する等の取り組みをしている。他、電話録音を活用するなどの手法もあるが、稲城市として今後取り組む内容について伺う。</p>	

項目 番号	質問要旨	摘要
4	<p><u>ガバメントクラウドファンディングの活用について</u> 返礼品が重視され苛烈な競争となっている従来の『ふるさと納税』と違い、地域課題の解決など目的がはっきりした、公共性が高く、そのプロジェクトの内容自体が寄付者から重視される『ガバメントクラウドファンディング』であるが、</p> <p>(1) 現在実施されている従来型ふるさと納税について、市の状況と課題認識を改めて伺う。</p> <p>(2) 市として、指定寄附金と異なる『ガバメントクラウドファンディング』という考え方をどのように捉えられているか、伺う。</p> <p>(3) 他市での活用、成功事例も聞き及んでいる。稲城市政の中で、同仕組みを今後活用していくことも可能ではないかと考えるが、市の見解を伺う。</p>	